

平成30年度第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日時及び場所

平成31年3月13日（水）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- (1) 近畿中国局管内の木材需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

3 議事概要

《検討結果》

住宅関係では、平成30年の新設着工戸数が2年連続で減少した。利用関係別では、分譲一戸建ては好調だが、貸家は減少し、持家もほぼ横ばいながらも減少した。また、消費増税前の駆け込み需要と見られる勢いは感じられない状況が続いている。

合板関係では、昨年、三重県の合板工場が稼働を開始したことで、原木及び合板製品の需給バランスが崩れるのではないかと懸念されたが、現在はバランスが取れている。

チップ関係では、国産材が原木不足の傾向にある中、木質バイオマス発電所が増加することによって、ますます原木集荷が困難になるのではないかと懸念される。

原木関係では、出材量は天候が良好だったことから安定しており、価格も製材用・ラミナ用・合板用の棲み分けによって安定した水準で推移している。

以上、現在の木材需給動向について検討した結果、国有林材の供給調整の必要性は認められない。

〈主な情報、意見等について〉

○国産材の需給動向

- ・奈良県内の原木市場では、天候が良好だったことから、出材作業は順調に行われ、3月以降もこのまま良い天候が続けば、5月まで出材は安定すると見込まれている。スギ・ヒノキ並材価格は、製材用・ラミナ用・合板用の棲み分けによって、価格に落ち着きが出てきており、安定した水準で推移している。
- ・広島県内の原木市場では、一時、ヒノキが強基調であったが落ち着いた。現在はスギが若干強含みの状況だが、大きな変動ではない。
- ・岡山県内の素材生産業では、天候が良好だったことから、出材作業は順調に行われている。
- ・京都府内の合板工場では、前回の消費増税のようなはっきりとした駆け込み需要はないものの、堅調に推移している。
- ・和歌山県内で来年の稼働予定である木質バイオマス発電所では、今年1月から原料調達が始まり、地元では燃料供給に関する協議会を立ち上げる等、原料供給体制に動きが出ている。
- ・現在、国産材の原木不足や外材の入荷量が減少している傾向にある中、前回の消費増税時ほどではないとしても4～5月辺りから構造材等の主要材の不足や価格上昇が考えられるため、木質バイオマス発電所が増加することによって、ますます原木集荷が困難になるのではないかと懸念される。

○その他

- ・新設住宅着工の状況について、季節的な春先や秋需要の勢いが感じられない状況が続いている。
- ・プレカット工場の全国的な傾向として、地元の中小工務店に活気がなく、大手ビルダーがかなり活躍しており、大手ビルダーと繋がっている工場と繋がっていない工場では製品の需給状況に濃淡がある状況が続いている。
- ・全国的に山林の事業地が徐々に奥地に入ってきているが、インフラ整備ができていないため、作業効率が悪く、コスト高になってきている。
- ・林業従事者の担い手不足が深刻化しており、再造林の一貫作業を請け負っても、伐採から植林まではできるが、その後の育林まで手が回らない状況にあるので、林業従事者を増やすためにも、65歳以上の雇用ができるような支援・制度の構築をお願いしたい。
- ・建築現場においても、人手不足が徐々に深刻化しており、工事の遅延が多く発生している。
- ・配送トラックを確保できず、物流に支障が出ている。
- ・和歌山県内初のCLTを用いた公共建築物となる上富田町立岩田公民館が現在建設中である。
- ・和歌山県内のプレカット工場では、東京オリンピック・パラリンピック選手村ビレッジプラザの建設に使用される紀州材の製材加工を担当しており、今年2月から製材を開始している。